

近畿大学アンチエイジングセンター長
掛樋一晃 近畿大学薬学部教授・薬学部長に聞く

奈良病院でのアンチエイジングドックを中心 国民の健康増進に貢献へ



Q 今、なぜアンチエイジングセンターを開設したのか。

A 日本は高齢化社会になりました。そうしたなかで病気になる前に予防しようという「予防医学」の大切さがいわれています。つまり、病気になる

まえに運動や食事に気をつけて、健康で元気に老後を過ごしましょうという事です。国は「新健康フロンティア戦略」を打ち出し、「がん克服力」「メタボリックシンドローム克服力」「スポーツ力」といった力を国民がつける

「健康国家への挑戦」に踏み出しています。近畿大学も総合大学として、国の施策に貢献するためです。

Q どう貢献しようかと？

A 近畿大学の世耕弘昭理事長から、国が「健康国家へ挑戦」するなかで「近大が総合大学の強みを活かして、学部が連携すれば役立つものがある」という話がありました。九つある新健康フロンティア戦略の中で、「がん克服力」「メタボリック克服力」「スポーツ力」「食の選択力」の四つはすでに研究に取り組んでいます。そこで、それに関連する医学部や薬学部、農学部、健康スポーツ教育センターが連携すれば今すぐにも対応できると判断し、それに最もふさわしい抗加齢医学の研究を「丸」として推し進めるのが「アンチエイジングセンター」と考え、立ち上げるようになりました。センターで実践の戦略を策定し実

行することで、近大が国民の健康増進に寄与できます。

Q 実行するには人材が必要ですね。

A 2006年から薬学部では6年制が始まりました。基本は医療に根ざした薬剤師を育てることですが、創薬も重視しています。この中には健康食品(サプリメント)も含まれます。そこで活躍できる薬学の知識をもった人材を育てたい。そうすると薬学だけではなく、医学部や農学部の協力を得て幅広い知識を持たなければならぬ。そうした考え方に立ったときに四つが連携するアンチエイジングセンター開設に結びついたともいえます。

Q アンチエイジングセンターの具体的な中身は？

A 医学部「奈良病院」が中心になって対応するアンチエイジングドックです。抗加齢に関心の高い受診者を、問診や採血によって健康状態をチェックします。その結果をもとに投薬が必要かどうか、あるいは運動を勧めるといった指導をします。ここから薬学部や農学部、健康スポーツ教育センターとの連携が始まります。受診者の健康

アンチエイジング

「健康で元気に老後を過ごそう」をテーマに 近畿大学がアンチエイジングセンターを開設

近畿大学は2007年10月、総合大学の強みを活かして医学部や薬学部、農学部、健康スポーツ教育センターが連携して取り組むアンチエイジング(抗加齢)センターを開設、本格的に稼働した。

状態に即した総合的な健康指導といえます。

Q 「メタボリック克服力」の研究は？

A メタボリックは簡単にいえば、内臓脂肪の蓄積により糖尿病や高血圧などの動脈硬化の危険因子が、個人に集積している状態です。糖尿病の発生率を減らし、脳卒中や心疾患による死亡を減らすために、この三つに対する漢方や健康食品を薬学部薬用資源学研究室や薬学総合研究所で開発することを第一目標にしています。

Q 「食の選択力」というのは？

A 生涯にわたって健康な心と体を保ち、豊かな人間性を育むのが目標です。それにはいい食事をすることも大切です。食に対する知識と食を選択できる力を身につけるため、農学部が中心になって食事バランスガイドなどを作成します。

Q ところで「アンチエイジング」は、最近よく耳にするようになってきました。

A 国内では医学を中心に「抗加齢ドック」「抗加齢外来」を開設する大学も出ています。ただ近大のように医学・薬学・農学・健康スポーツが連携して取り組むところはありません。アメリカでは医療において非常に注目されている分野です。また臨床医向けに開発されたサプリメントは、医療の現場で多用されて医療効果を上げています。そして成人の60%以上が日常的にサプリメントを利用しているそうです。

Q 今後のアンチエイジングセンターの取り組みは？

A 医・農・薬学部でそれぞれアンチ



近畿大学薬学部棟